

令和元年度 浜松市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

令和2年6月
浜松市（静岡県）

全体総括

○計画期間：平成27年1月～令和2年3月（5年3月）

平成27年1月以降、認定基本計画に基づき、「来たい都心」「住みたい都心」「参加したい都心」といった三つの基本目標を設定し、各事業を実施してきたことで、特に休日における歩行者通行量は上昇基調に転じ、また、公共施設の入場者数も増加させる等、まちなかのにぎわい創出が図られている。

その要因として、平成22年4月に民間主導で設立されたまちづくり団体「浜松まちなかにぎわい協議会」が、肴町商店街との雑貨市「まるたま市」、飲食イベント「浜松バル街」、千歳町を中心とした飲食イベント「職人市場」、まちなかの多くの商店と協力して実施した「得する街のゼミナール」等の各種イベントを地道に開催し続けるとともに、コミュニティスペース「Any」を平成27年11月にオープンし、起業希望者の掘り起しや新たな意欲溢れた人材を発掘してきたことによって、積極的にまちづくりやイベントに参加する、または主催する関係者が増えてきていることが大きな成果につながっている。

また、メインストリートである「鍛冶町大通り」の将来の理想像を検討する「中心市街地の発展と役割を考える会」が商店街と地域住民によって設立され、ワークショップを通して街並みの将来像を視える化した模型を作成して展示会を実施し、さらにワークショップにて提案されたイベント等のアイデアブック「100のアイデア」を踏まえたイベントを開催し、まちなかを盛り上げたいプレイヤーを発掘するとともに、市民主体のまちづくりへの気運を高める等、中心市街地活性化に向けて民間活力を最大限に活かした体制構築が進展している。

一方で、鍛冶町地区再生事業における旧松菱百貨店跡地については、更地の状態が続いており、平成29年2月、令和元年6月に再開発事業者に対し事業計画提出等の勧告を行ったが、具体的な事業計画案の提出には至っておらず、引き続き課題となっている。

1. 計画期間終了後の市街地の概況

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成26年度 （計画前年度）	平成27年度 （1年目）	平成28年度 （2年目）	平成29年度 （3年目）	平成30年度 （4年目）	令和元年度 （最終年度）
人口	11,566	11,627	11,681	11,770	11,813	11,974
人口増減数	207	61	54	89	43	161
自然増減数	△43	14	△11	△51	△45	△80
社会増減数	250	47	65	140	88	241
転入者数	880	886	788	717	745	896

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

中心市街地活性化基本計画において、まずは『まちなかにひとを増やす』ことを課題として、様々な事業を地道に展開してきたこと、また、年間を通して、民間主体によるイベント等が頻繁に開催されていることで、特に休日における歩行者通行量は、平成26年度の99,392人から令和元年度には目標値109,300人を大きく上回る130,416人と上昇基調に転じた。また、公共施設の入場者数も平成26年度の1,493,078人に対して、それぞれの施設ごとに、まちづくり団体や商店街との連携などの積極的な取り組みにより入場者数を1,685,230人に増加させている。

一方で、平日の歩行者通行量とまちなか全体の回遊性が課題となっており、平成26年度からリノベーションスクールを開催するなど、魅力的な店舗や空間の創出を図ってきたことで、空き店舗や空き地について平成26年度の71区画から平成27年度には88区画と増加したものの令和元年度には68区画と増加に歯止めがかかりつつあり、今後の改善が見込める。

また、居住人口については、駅前周辺のマンション需要が堅調であることから、今後も居住人口は増加するものと思われる。なお、居住人口の目標13,100人に対して、令和元年度11,974人であったのは、再開発事業のタワーマンションの入居が計画期間中に間に合わなかったものと、優良建築物等整備事業におけるマンション2棟分のうち1棟分が延期になったことによるものであるが、計画期間中は615人増加している。

これまでの中心市街地活性化基本計画における方針を踏まえて、民間主体のまちづくり団体「浜松まちなかにぎわい協議会」や商店街との官民連携により、まちづくりやにぎわい創出に積極的に参加する、または主催する多くの方々が増えてきたことで、持続的に中心市街地活性化に取り組む体制が構築できたことから、中心市街地活性化について大きな成果があったものと考えられる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

浜松市中心市街地活性化協議会としては、行政、商工会議所、まちづくり団体、商店街、地域住民等との官民連携による中心市街地活性化を推進してきた結果、順調に成果はあったものと評価している。

一方で、本計画認定前からの大きな課題であった鍛冶町地区再生事業については、行政の努力は認めるものの進展が見られないこと、また、中心市街地の将来目指すべき都市像が具体的な絵などで示し切れていないこと等の指摘があったが、進んでいる方向性に間違いはなく、引き続き、これまでの取り組みを地道に続けるべきであるとの意見であった。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

中心市街地活性化に関するヒアリング

調査日：令和元年 11 月～1 月

調査方法：中心市街地の関係者への個別ヒアリング

調査人数：30 人

計画期間中から歩行者通行量等、土日祝日については改善が見られ、以前よりも中心市街地は活性化しているとの意見が大半であったが、鍛冶町地区再生事業（旧松菱百貨店跡地）の進展を望む声が多い中で、事業の進展がみられないことから、評価はしつつも十分な活性化等が図られているとは言えず、若干の活性化に留まる意見が大半であった。

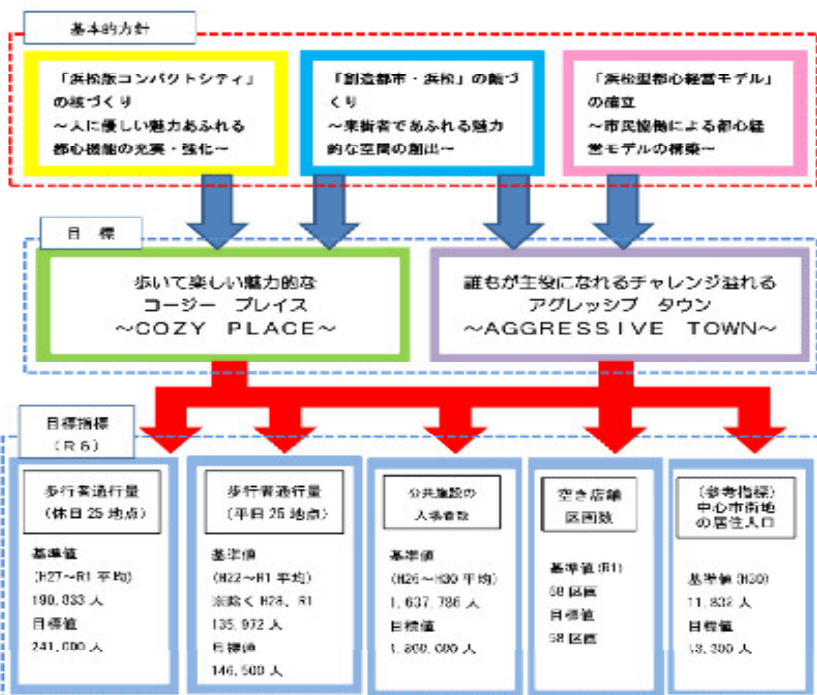
6. 今後の取組

今後については、これまでの中心市街地活性化基本計画における方針を踏襲しながら、引き続き、官民連携による公共空間の利活用推進事業やリノベーションスクール等の都心既存ストックの利活用事業など様々な事業を地道に推進しながら、さらに踏み込んだ事業を展開していくことで、現計画において課題となった「まちなか全体の回遊性の向上」、「平日昼間のにぎわいの創出」の改善に向けて取り組む必要がある。

具体的には、これまでの取り組みに加えて、まちなかに魅力的な店舗を数多く点在させるとともに、新たな憩いやにぎわいの空間を創出し、これまで広場として中心市街地活性化に寄与していた浜松市ギャラリーモールや既存の魅力的な店舗とを結びながら、来街目的となる場所の増加、併せて、魅力的な企業や起業家の集積を図ることで、歩いて楽しいまちなかを創出していく。

なお、今後の中心市街地活性化については、これまでの基本計画を踏まえながら市独自の方針や目標を定めて推進していく。

（浜松市の今後の中心市街地活性化の方針）



(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考)目標の80%	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
来たい都心 ～にぎわいのある魅力あふれる空間の創出～	歩行者 通行量 (休日)	99,392 人 (H26)	109,300 人 (H31)	107,318 人 (R1)	130,416 人 (R1)	R1.10	A
	公共施設 入場(来場)者 数	1,493,078 人 (H25)	1,550,000 人 (H31)	1,536,616 人 (R1)	1,685,230 人 (R1)	R2.3	A
住みたい都心 ～快適な都心生活空間の創出～	中心市街地の 居住人口	11,359 人 (H25)	13,100 人 (H31)	12,752 人 (R1)	11,974 人 (R1)	R2.1	B2
参加したい都心 ～市民協働による浜松型都心経営モデル～	空き店舗 区画数 (対象地域: 都市再生緊急 整備地域 40ha)	71 区画 (H26)	53 区画 (H31)	57 区画 (R1)	68 区画 (R1)	R1.11	B2
	<参考指標> 法人数 (対象地域: 計画区画 220ha)	1,152 社 (H26)	1,167 社 (H31)	1,164 社 (R1)	1,215 社 (R1)	R2.1	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の80%を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の80%を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

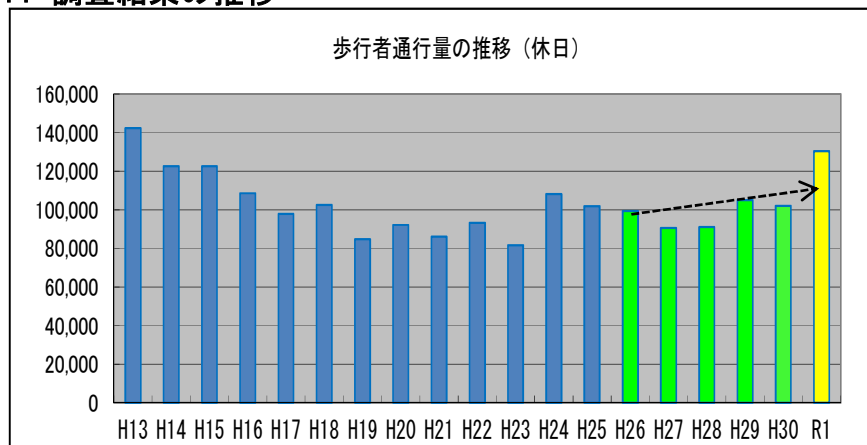
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者通行量（休日）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 97～P. 100 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H26	99,392 (基準年値)
H27	90,313
H28	90,958
H29	105,102
H30	102,049
R1	130,416
R1	109,300 (目標値)

※調査方法：調査員が数取器を用い調査地点（27地点）を通過する歩行者を休日10時～20時の10時間計測

※調査月：令和元年10月

※調査主体：浜松市

※調査対象：歩行者通行量対象8地点

- ①ザザシティ浜松西館、②旧松菱、③松菱通り、④Cビル前、
 - ⑤遠州鉄道新浜松駅下、⑥プレスタワー前、⑦JR浜松駅北口、
 - ⑧遠鉄百貨店東側
- を通過する中学生以上の歩行者数（自転車、車いす等を含む）

2. 目標の達成状況【A】

休日の中心市街地主要8地点における歩行者通行量は、多くの事業が順調に推進されてきたため、また、中心市街地の活性化を目的に設立された「浜松まちなかにぎわい協議会」が、商店街と連携したイベントを地道に開催し続けるとともに、起業希望者の掘り起しや新たな意欲溢れた人材を発掘してきたことで、1年を通して休日には、中心市街地の様々な場所でイベントが開催されている環境が整い、来街が促進されたため、目標を達成した。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 浜松城公園整備事業（浜松市）

事業実施期間	平成23年度～令和元年度
事業概要	浜松城公園の歴史的価値の顕在化を図るため、「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」に基づき浜松城の整備を行い、来街者の増加及び中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省） （平成26年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	概ね計画通りに進捗しており、令和元年度は富士見櫓周辺の整備に向けて周辺樹木の伐採を実施した。また、令和元年度の浜松城天守閣への入場者数は211,172人（前年度199,544人）と昨年度に比べて増加した。要因としては、浜松城周辺が順調に整備されてきたことから大河ドラマ終了以降減少した来場者が戻ってきていることからである。
達成した（出来なかった）理由	大河ドラマ「女城主直虎」で来場者を大きく伸ばしながら、その間もエントランスゾーンの整備等により大きく環境が整備されたことで来場者を確保している。
計画終了後の状況（事業効果）	概ね順調に整備が進んでおり、引き続き中心市街地の活性化に寄与する歴史施設として効果を発揮している。 一方で新型コロナウイルス感染症の影響により、現在の来場者は減少傾向にある。
事業の今後について	引き続き「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」に基づき浜松城の整備を行い、来街者の増加及び中心市街地の活性化を図る。

②. アクトシティ浜松管理・運営事業（浜松市・指定管理者）

事業実施期間	平成6年度～【実施中】
事業概要	「音楽の都づくり」の拠点施設であるアクトシティ浜松を効果的に活用し、文化的価値と市民需要の両面を満たした多くの芸術文化事業を展開し、にぎわいのある魅力溢れる空間を創出することで中心市街地活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度の来場者数は758,378人（前年度861,216人）と新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少している。令和元年度には25周年を迎えたこともあり、25周年イベント「浜松恐竜ワールド2019」など、積極的に大型のイベントを開催しており、世界の音楽文化の振興、国際交流の推進拠点となっている。
達成した（出来なかった）理由	令和元年度終盤の新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、事業者の努力により減少を最低限に抑えた結果、公共施設の来場者目標を達成できた。
計画終了後の状況（事業効果）	引き続き、音楽文化振興、国際交流等も含めた中心市街地になくなくてはならない拠点として機能している。 なお、令和2年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受けている状況である。
事業の今後について	引き続き、3年に1度開催の国際ピアノコンクールなど、楽器と音楽のまちとしての歴史と伝統を誇るにふさわしい国際的文化事業を継続していく。

③. 楽器博物館管理・運営事業（浜松市・指定管理者）

事業実施期間	平成7年度～【実施中】
事業概要	「楽器収集・保存・調査・展示と音楽文化の向上」、「音楽の都づくり」、「世界都市浜松としての情報発信と音楽文化への貢献」に寄与する事業を実施することで、中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度の来場者数は 82,617 人（前年度 87,902 人）と新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少している。国内では珍しい博物館という強みを活かしており、安定的な来場者を確保している。
達成した（出来なかった）理由	国内でも珍しい楽器の博物館であるため、安定した来場者を確保できている。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルスの影響を受けているが、状況を踏まえながら来場者増加に向けて運営していく。
事業の今後について	当該施設は、日本で唯一の公立楽器博物館であり、「音楽のまち 浜松」を推進していくための重要拠点の1つであるとともに中心市街地の活性化に寄与していることから、引き続き来場者の増加を図っていく。

④. 浜松こども館管理・運営事業（浜松市・指定管理者）

事業実施期間	平成13年度～【実施中】
事業概要	遊びを通じた多様な社会・文化体験と交流機会の提供を目的に、遊び・創造・展示が体験できる文化施設として、年齢の異なる子どもたちに幅広く交流できる機会を提供し、児童の健全育成を図るとともに、子育て支援機能を持った複合施設を管理運営することで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度の来場者数は 184,695 人（前年度 228,702 人）となっているが、これは施設の改修 2 か月間と新型コロナウイルス感染症 1 か月、合計 3 か月にわたる休館期間があったためである。
達成した（出来なかった）理由	平成 27 年度以降来場者を増やし続け安定した来場者を確保してきた
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症による影響により休館期間が発生していたが、開館後、来場者増加に向けて推進していく。
事業の今後について	こどもと子育て世代の親を中心市街地と結ぶ重要拠点であることから、引き続き、来場者の増加に向けて管理運営していく。

⑤. 観光客誘致等事業（浜松市）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	多彩な地域資源を活かした観光地づくりをはじめ、産業観光の推進と観光プロモーションの強化、インバウンド戦略の推進に関する事業を実施。県内外からの交流人口を増加させ、中心市街地の賑わいのある魅力溢れる空間の創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は、浜松市の魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を2019年1月6日にオープンし、令和元年度来館者数は約20万人であった。「ビーチ・マリンスポーツ」や大河ドラマ「いだてん」の世界観が味わえる展示コーナーや「レンタサイクルステーション」、「手荷物預かり」や「観光案内サービス」も受けられ、浜松の情報発信拠点として、中心市街地に限らず、浜松市全体のにぎわいや回遊性の向上に寄与した。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものの、イベントも含め様々な観光施策を実施した効果があった。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているが、浜松市の魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を令和2年度も運営するなど、各種観光施策による来街者の回復を図っている。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、状況に応じた観光施策を実施していく。

⑥. 都心ゲートパーク北地区整備事業（浜松市）

事業実施期間	平成18年度～【実施中】
事業概要	鉄道高架下の公共空間である都心ゲートパーク北地区を見直し、中心市街地の回遊性向上を図り、新たな集客拠点として再整備していく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は、浜松市の魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を2019年1月6日にオープンし、令和元年度来館者数は約20万人であった。「ビーチ・マリンスポーツ」や大河ドラマ「いだてん」の世界観が味わえる展示コーナーや「レンタサイクルステーション」、「手荷物預かり」や「観光案内サービス」も受けられ、浜松の情報発信拠点として、中心市街地に限らず、浜松市全体のにぎわいや回遊性の向上に寄与した。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものの、年度初めから順調に来館者を伸ばしていたため効果を発揮した。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているが、浜松市の魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を令和2年度も運営するなど、中心市街地への来街者の回復を図っている。
事業の今後について	浜松ならではの展示コーナーやコンテンツ、さらには、イベント開催も企画するなどし、さらなる集客を図っていく。また、来場者に中心市街地の魅力や情報を発信し、回遊性の向上に寄与していく。

⑦. 創造都市浜松推進事業（浜松市・まちづくり組織）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	官民が連携して遊休不動産のリノベーション等によるインキュベーター施設、シェアオフィス等を設置・運営するとともに、雑貨市『まるたま市』を開催しながら、将来、中心市街地で創業するクリエイター等の掘り起こしや誘発を推進していくことで、中心市街地に好循環を生み出す仕組みを構築する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度もまるたま市を年2回4日間を年1回2日間と変更したものの引き続き開催した。出店数は約100店舗（前年度202店舗）ならびに来場者数7,200人（前年度18,900人）と年々定着してきており、起業候補者の発掘・育成に寄与している事業と言える。商店街等への新規出店数の増加に繋げることが課題となっているため、他事業とも連携をしていく必要がある。
達成した（出来なかった）理由	イベントとしての「まるたま市」の集客力は定着していることもあり安定していた。
計画終了後の状況（事業効果）	起業、創業を目指すクリエイターの発掘を目的として「まるたま市」を引き続き実施する。
事業の今後について	「まるたま市」は継続開催しつつ、浜松まちなかにぎわい協議会が運営しているコワーキングスペース等の施設「Any」を有効活用しながら起業、創業を支援していく。

⑧. 公共空間の利活用推進事業（浜松市・まちづくり組織）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	バスターミナル地下広場、アクト通り、鍛冶町大通り、新川緑地等をにぎわい創出を目的とした公共空間として積極的に活用し、民間活力を最大限に発揮できる体制により当該空間を運営することで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	月に1回朝市を開催しているアクト通りでは、地元自治会や学生の協力もあり出店者数が増加中、来場者数についても年間5,000人（前年度5,600人）と徐々に増加しており、地域に根差したイベントとなってきている。また、新たににぎわい創出の場として新川緑地の再整備に向けて設計等を実施した。
達成した（出来なかった）理由	まちづくり会社、自治会、大学等の地域連携による取り組みであり、地域のコミュニティの場として定着した。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、現在、休止中であるが、あらためて体制を整えば再開する
事業の今後について	アクト通りで開催している朝市は、出店者および来場者ともに順調に伸びており、地域に根差したイベントになっている。また、周辺イベントと連携を図り回遊性も向上してきた。今後も引き続きイベントを実施することで集客やにぎわいの創出を図る。

⑨. シティプロモーション事業（浜松市）

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
事業概要	『出世の街 浜松』のPRに重点を置いた一貫性やストーリー性のあるシティプロモーションを実施すると共に、徳川家康公関連のイベント事業や、出世城と言われる浜松城を中心に回遊性を高めることにより、賑わいのある魅力溢れる空間の創出を目標とし、中心市街地の活性化を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は、浜松市の魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を2019年1月6日にオープンし、令和元年度来館者数は約20万人であった。「ビーチ・マリンスポーツ」や大河ドラマ「いだてん」の世界観が味わえる展示コーナーや「レンタサイクルステーション」、「手荷物預かり」や「観光案内サービス」も受けられ、浜松の情報発信拠点として、中心市街地に限らず、浜松市全体のにぎわいや回遊性の向上に寄与した。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものの、様々なシティプロモーションを実施した効果があった。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているが、浜松市の魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を令和2年度も運営するなど、シティプロモーションによる来街者の回復を図っている。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、状況に応じたシティプロモーション及び観光施策を実施していく。

⑩. 鍛冶町大通り利活用調査検討事業（自治会及び商店街）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	中心市街地のメインストリートである鍛冶町大通りの再生及びにぎわい創出のため、地元自治会及び商店街の民間活力を最大限に活用し、当該通りの利活用を含めた将来像を調査、検討することで、今後の中心市街地活性化の体制強化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	これまでの活動をとりまとめるとともに、今後の活動におけるプレイヤーを発掘、支援する体制を整えた。
達成した（出来なかった）理由	自治会及び商店街によって設立されたこともあり、各種事業に参画意識の醸成が図れた。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、基本計画終了とともに一旦休止としている。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえて、今後もプレイヤーの発掘、鍛冶町通りの有効活用を検討、実施していく。

4. 今後の対策

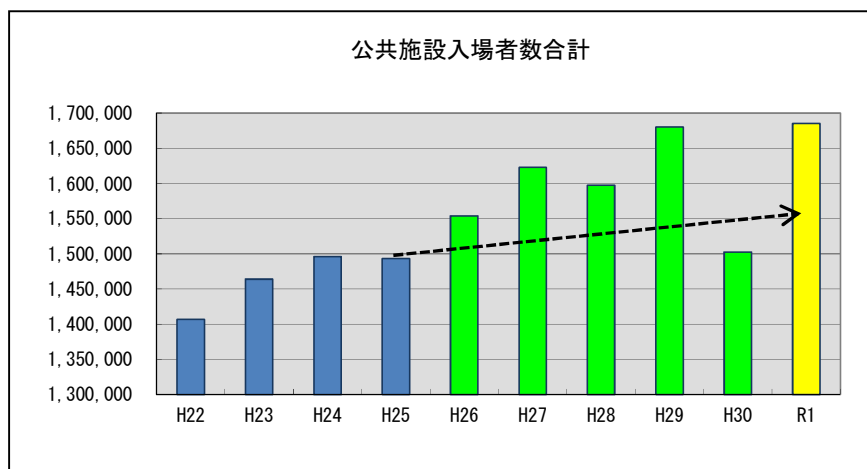
主要事業は概ね順調に進捗していたため、今後も、これまでの各種事業を継続的に取り組んでいくとともに、さらに踏み込んだ事業を展開していくことで、「まちなか全体の回遊性の向上」、「平日昼間のにぎわいの創出」の改善に向けて取り組むことが必要である。

具体的には、これまでの取り組みに加えて、まちなかに魅力的な店舗を数多く点在させるとともに、新たな憩いやにぎわいの空間を創出し、これまで広場として中心市街地活性化に寄与していた浜松市ギャラリーモールや既存の魅力的な店舗を結びながら、来街目的となる場所の増加、併せて、魅力的な企業や起業家の集積を図ることで、歩いて楽しいまちなかを創出していく。

個別目標

「公共施設入場（来場）者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 101～P. 104 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H25	1,493,078 (基準年値)
H26	1,553,917
H27	1,622,979
H28	1,597,676
H29	1,680,218
H30	1,502,660
R1	1,685,230
R1	1,550,000 (目標値)

※調査方法：各施設へ利用者数実績を聞き取り調査

※調査月：平成31年4月

※調査主体：浜松市

※調査対象：各施設の利用者数（一部施設、託児人数を除く）

○中心市街地周辺の主な公共施設入場者数実績（単位：人）

施設	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
浜松城	127,725	159,458	168,441	165,026	185,072	214,396	241,834	278,632	199,544	211,172
浜松科学館	217,940	179,997	197,229	210,953	228,412	240,569	210,228	246,694	0	248,174
楽器博物館	79,621	81,371	88,591	87,898	86,605	96,236	88,139	87,370	87,902	82,617
浜松 こども館	183,518	184,532	169,819	171,055	181,050	203,265	207,058	206,264	228,702	184,695
浜松市 美術館	79,786	67,119	53,614	72,157	85,356	38,724	52,196	36,352	101,575	174,622
アクトタワー 展望回廊	29,219	27,162	25,459	25,211	24,393	23,391	26,685	25,643	23,721	25,572
アクトシティ (ホール・会 議室)	688,967	764,405	793,062	760,778	763,029	806,398	771,536	799,263	861,216	758,378
公共施設 入場者数	1,406,776	1,464,044	1,496,215	1,493,078	1,553,917	1,622,979	1,597,676	1,680,218	1,502,660	1,685,230

2. 目標の達成状況【A】

公共施設入場（来場）者数は、公共施設によっては、改修やリニューアルをしつつ、それぞれの公共施設が来場者の増加を図るべく、新たなイベント等を積極的に展開したことで、多くの方の来街が促進されたため目標を達成した。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 浜松城公園整備事業（浜松市）【再掲】

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	浜松城公園の歴史的価値の顕在化を図るため、「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」に基づき浜松城の整備を行い、来街者の増加及び中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省） （平成26年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	概ね計画通りに進捗しており、令和元年度は富士見櫓周辺の整備に向けて周辺樹木の伐採を実施した。また、令和元年度の浜松城天守閣への入場者数は211,172人（前年度199,544人）と昨年度に比べて増加した。要因としては、浜松城周辺が順調に整備されてきたことから大河ドラマ終了以降減少した来場者が戻ってきていることからである。
達成した（出来なかった）理由	大河ドラマ「女城主直虎」で来場者を大きく伸ばしながら、その間もエントランスゾーンの整備等により大きく環境が整備されたことで来場者を確保している。
計画終了後の状況（事業効果）	概ね順調に整備が進んでおり、引き続き中心市街地の活性化に寄与する歴史施設として効果を発揮している。 一方で新型コロナウイルス感染症の影響により、現在の来場者は減少傾向にある。
事業の今後について	引き続き「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」に基づき浜松城の整備を行い、来街者の増加及び中心市街地の活性化を図る。

②. アクトシティ浜松管理・運営事業（浜松市・指定管理者）【再掲】

事業実施期間	平成6年度～【実施中】
事業概要	「音楽の都づくり」の拠点施設であるアクトシティ浜松を効果的に活用し、文化的価値と市民需要の両面を満たした多くの芸術文化事業を展開し、にぎわいのある魅力溢れる空間を創出することで中心市街地活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度の来場者数は758,378人（前年度861,216人）と新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少している。令和元年度には25周年を迎えたこともあり、25周年イベント「浜松恐竜ワールド2019」など、積極的に大型のイベントを開催しており、世界の音楽文化の振興、国際交流の推進拠点となっている。
達成した（出来なかった）理由	令和元年度終盤の新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、事業者の努力により減少を最低限に抑えた結果、公共施設の来場者目標を達成できた。
計画終了後の状況（事業効果）	引き続き、音楽文化振興、国際交流等も含めた中心市街地になくってはならない拠点として機能している。 なお、令和2年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受けている状況である。
事業の今後について	引き続き、3年に1度開催の国際ピアノコンクールなど、楽器と音楽のまちとしての歴史と伝統を誇るにふさわしい国際的文化事業を継続していく。

③. 楽器博物館管理・運営事業（浜松市・指定管理者）【再掲】

事業実施期間	平成7年度～【実施中】
事業概要	「楽器収集・保存・調査・展示と音楽文化の向上」、「音楽の都づくり」、「世界都市浜松としての情報発信と音楽文化への貢献」に寄与する事業を実施することで、中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度の来場者数は82,617人（前年度87,902人）と新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少している。国内では珍しい博物館という強みを活かしており、安定的な来場者を確保している。
達成した（出来なかった）理由	国内でも珍しい楽器の博物館であるため、安定した来場者を確保できている。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルスの影響を受けているが、状況を踏まえながら来場者増加に向けて運営していく。
事業の今後について	当該施設は、日本で唯一の公立楽器博物館であり、「音楽のまち 浜松」を推進していくための重要拠点の1つであるとともに中心市街地の活性化に寄与していることから、引き続き来場者の増加を図っていく。

④. 浜松こども館管理・運営事業（浜松市・指定管理者）【再掲】

事業実施期間	平成13年度～【実施中】
事業概要	遊びを通じた多様な社会・文化体験と交流機会の提供を目的に、遊び・創造・展示が体験できる文化施設として、年齢の異なる子どもたちに幅広く交流できる機会を提供し、児童の健全育成を図るとともに、子育て支援機能を持った複合施設を管理運営することで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度の来場者数は184,695人（前年度228,702人）となっているが、これは施設の改修2か月間と新型コロナウイルス感染症1か月、合計3か月にわたる休館期間があったためである。
達成した（出来なかった）理由	平成27年度以降来場者を増やし続け安定した来場者を確保してきた
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症による影響により休館期間が発生していたが、開館後、来場者増加に向けて推進していく。
事業の今後について	こどもと子育て世代の親を中心市街地と結び重要拠点であることから、引き続き、来場者の増加に向けて管理運営していく。

⑤. シティプロモーション事業（浜松市）【再掲】

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
事業概要	『出世の街 浜松』のPRに重点を置いた一貫性やストーリー性のあるシティプロモーションを実施すると共に、徳川家康公関連のイベント事業や、出世城と言われる浜松城を中心に回遊性を高めることにより、賑わいのある魅力溢れる空間の創出を目標とし、中心市街地の活性化を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は、浜松市の魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を2019年1月6日にオープンし、令和元年度来館者数は約20万人であった。「ビーチ・マリンスポーツ」や大河ドラマ「いだてん」の世界観が味わえる展示コーナーや「レンタサイクルステーション」、「手荷物預かり」や「観光案内サービス」も受けられ、浜松の情報発信拠点として、中心市街地に限らず、浜松市全体のにぎわいや回遊性の向上に寄与した。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものの、様々なシティプロモーションを実施した効果があった。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているが、浜松市の魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を令和2年度も運営するなど、シティプロモーションによる来街者の回復を図っている。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、状況に応じたシティプロモーション及び観光施策を実施していく。

⑥. 浜松こども館を核としたまちなか子育て支援事業（浜松市・指定管理者）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	これからの中心市街地をつくるのは、これからの子どもたちというコンセプトのもと、多くの子ども達が来場する浜松こども館を有効活用し、良き思い出をつくることで中心市街地への愛着を育てていく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度の来場者数は184,695人（前年度228,702人）となっているが、これは施設の改修2か月間と新型コロナウイルス感染症1か月、合計3か月にわたる休館期間があったためである。
達成した（出来なかった）理由	平成27年度以降来場者を増やし続け安定した来場者を確保してきた。また、こども館の中だけではなく、街中へ出ていくイベントも開催されており中心市街地活性化に寄与している。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症による影響により休館期間が発生していたが、開館後、来場者増加に向けて推進していく。
事業の今後について	こどもと子育て世代の親を中心市街地と結ぶ重要拠点であることから、引き続き、周辺イベントと連携を図り、こども館を拠点にまちなかでの体験事業など、さらなる集客とまちなかへの回遊促進を図っていく。

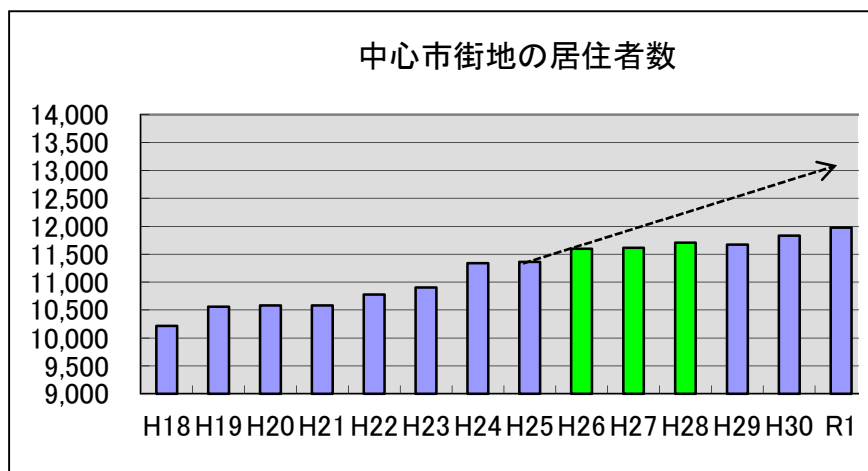
4. 今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗している。今後も、必要な改修やリニューアルを行いながら魅力的なコンテンツ、イベントを開催していくことで、さらなる来場者の増加を目指す。また、まちづくり団体や商店街との連携によるイベント等の情報を発信し、公共施設来場者のまちなかへの回遊性の向上につなげていく。

個別目標

「中心市街地の居住人口」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 105～P. 107 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H25	11,359 (基準年値)
H26	11,593
H27	11,614
H28	11,707
H29	11,670
H30	11,832
R1	11,974
R1	13,100 (目標値)

※調査方法：浜松市人口統計情報による（住民基本台帳による情報）

※調査月：令和2年1月

※調査主体：浜松市

※調査対象：認定区域居住者

2. 目標の達成状況【B2】

居住人口については、駅前周辺のマンション需要が堅調であることから、今後も居住人口は増加するものと思われる。なお、居住人口の目標未達成については、再開発事業のタワーマンションの入居が計画期間中に間に合わなかったものと、優良建築物等整備事業におけるマンション2棟分のうち1棟分が計画期間中に実施できなかったことによるものである。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 旭・板屋 A 地区第一種市街地再開発事業（旭・板屋 A 地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【済】
事業概要	市街地再開発事業により、本地区における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新及び集積を図り、駅正面に都心拠点を形成することで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） 平成27年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度にA-1地区の建築工事が概ね計画通りに竣工した。 （246戸完売）
達成した（出来なかった）理由	マンション購入者（246戸）の入居が計画期間中に間に合わなかったため目標数値に向けての居住人口増加に寄与できなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	令和2年6月以降より順次当該マンションへの入居が開始されている。
事業の今後について	事業完了

②. 常磐町優良建築物等整備事業（民間事業者）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【済】
事業概要	中心市街地への居住ニーズが高まる中、土地の高度利用を図り、本地区における快適な居住空間を提供する。 居住機能を高めることは「快適な都心生活空間の創出」を目標とする中心市街地の活性化に資する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省） 平成27年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	平成29年度に着手した第1期工事が令和元年度に竣工し、順次購入者が入居した。（172戸）
達成した（出来なかった）理由	計画期間中の入居が間に合わなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	順次、入居中であり、第2期工事について、民間事業者検討中
事業の今後について	当該事業については完了

4. 今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗したものの大型マンションの入居が計画期間中に間に合わなかったことから、今後も当該マンションへの入居が開始されれば大きく居住人口も増加していく。

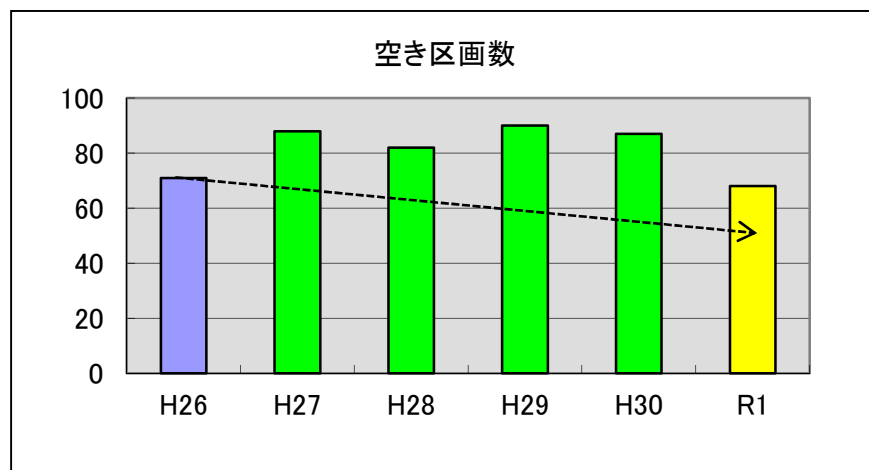
なお、駅前のマンション需要は堅調であることから、引き続き、マンション建設は民間事業者によって建設されていくため、必要に応じて支援をしていく。

個別目標

「空き店舗区画数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 108～P. 110 参照

※対象地域：都市再生緊急整備地域 40ha

1. 調査結果の推移



年	(単位：区画)
H26	71 (基準年値)
H27	88
H28	82
H29	90
H30	87
R1	68
R1	53 (目標値)

※調査方法：調査員が住宅地図を基に実際対象箇所を回り確認

※調査月：令和元年10月

※調査主体：浜松市

※調査対象：都市再生緊急整備地域40ha内の空き区画

2. 目標の達成状況【B2】

主要事業自体は進捗しているものの、高齢化による閉店や老朽化によるビルの取り壊しなどにより事業効果が追い付いていない状況であったため、目標数値には及ばなかった。

令和元年度には、まちなかのにぎわいを取り戻しつつある中で空き店舗区画数も回復基調に入ったかと思われたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、閉店、廃業等も出ている状況であり悪化していく可能性が高い。

今後は、これまでの取り組みを踏まえつつ、リノベーションの手法等を用いて、また、地元企業等と連携しながら商店街の再興やにぎわい創出が図れるよう事業を検討、実施していく。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 都心既存ストックの利活用事業（浜松市・まちづくり組織）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	都心の遊休不動産（既存ストック）の活用を目指して、地域の実情にあったリノベーション等による商業等の業務機能の再生を図るとともに、サブリース事業の実施主体となる組織及び人材を育成し、継続的な事業実施を目指すことで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度には、通常のリノベーションスクールに加えて、地元の企業28社が参加したリノベーションスクール企業版を開催した。企業版においても郊外の有名店舗が中心市街地への出店を決め、地元商店街とのコラボレーションを企画するなど好循環に向けて地道な努力が実ってきている感がある。 また、中心市街地活性化に意欲ある人材も順調に発掘している。
達成した（出来なかった）理由	想定していた以上に閉店や廃業に加えて高齢化による閉店や老朽化によるビルの取り壊しなどがあり、事業効果が追いついていない状況であったため、目標数値には及ばなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	これまでリノベーションスクールにおいて22物件中11物件が事業化されており、また、企業版においても新たな提案が出ていることから今後事業効果が発揮されるものと考えている。
事業の今後について	当該事業は継続的に実施していくことで、点を面にできる事業であるため引き続き実施していく。

②. 創造都市浜松推進事業（浜松市・まちづくり組織）【再掲】

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	官民が連携して遊休不動産のリノベーション等によるインキュベーター施設、シェアオフィス等を設置・運営するとともに、雑貨市『まるたま市』を開催しながら、将来、中心市街地で創業するクリエイター等の掘り起こしや誘発を推進していくことで、中心市街地に好循環を生み出す仕組みを構築する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度もまるたま市を、年1回4日間を年1回2日間と変更したものの引き続き開催した。出店数は約100店舗（前年度202店舗）ならびに来場者数7,200人（前年度18,900人）と年々定着してきており、起業候補者の発掘・育成に寄与している事業と言える。商店街等への新規出店数の増加に繋げることが課題となっているため、他事業とも連携をしていく必要がある。
達成した（出来なかった）理由	イベントとしての「まるたま市」の集客力は定着していることもあり安定していた。
計画終了後の状況（事業効果）	起業、創業を目指すクリエイターの発掘を目的として「まるたま市」を引き続き実施する。
事業の今後について	「まるたま市」は継続開催しつつ、浜松まちなかにぎわい協議会が運営しているコワーキングスペース等の施設「Any」を有効活用しながら起業、創業を支援していく。

③. 浜松こども館を核としたまちなか子育て支援事業（浜松市・指定管理者）【再掲】

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	これからの中心市街地をつくるのは、これからの子どもたちというコンセプトのもと、多くの子ども達が来場する浜松こども館を有効活用し、良き思い出をつくることで中心市街地への愛着を育てていく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度の来場者数は184,695人（前年度228,702人）となっているが、これは施設の改修2か月間と新型コロナウイルス感染症1か月、合計3か月にわたる休館期間があったためである。
達成した（出来なかった）理由	平成27年度以降来場者を増やし続け安定した来場者を確保してきた。また、こども館の中だけではなく、街中へ出ていくイベントも開催されており中心市街地活性化に寄与している。
計画終了後の状況（事業効果）	新型コロナウイルス感染症による影響により休館期間が発生していたが、開館後、来場者増加に向けて推進していく。
事業の今後について	こどもと子育て世代の親を中心市街地と結び重要拠点であることから、引き続き、周辺イベントと連携を図り、こども館を拠点にまちなかでの体験事業など、さらなる集客とまちなかへの回遊促進を図っていく。

④. 浜松市商業者連携促進支援事業（浜松市）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	商店街の活性化を目的として、商業者が自ら課題を抽出し、課題解決のために考え実行することで、中心市街地活性化の商業者による主体者形成及び賑わい創出に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成27年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は、新規補助件数4件、1,850千円（前年度8件、4,623千円）の実績となった。
達成した（出来なかった）理由	空き店舗解消も含めて商店街の魅力アップに対して補助金を交付しているが、直近で空き店舗を埋められるような申請等はなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	商店街独自の取り組みにより空き店舗対策を実施している商店街も出てきており、民間活力を活かすことが出来ている。
事業の今後について	空き店舗等の対策については、商店街そのものの魅力向上も必要であるため、引き続き実施していく。 なお、令和2年度より空き店舗に入居する場合の敷金補助を当該補助金の交付要綱に加えて実施している。

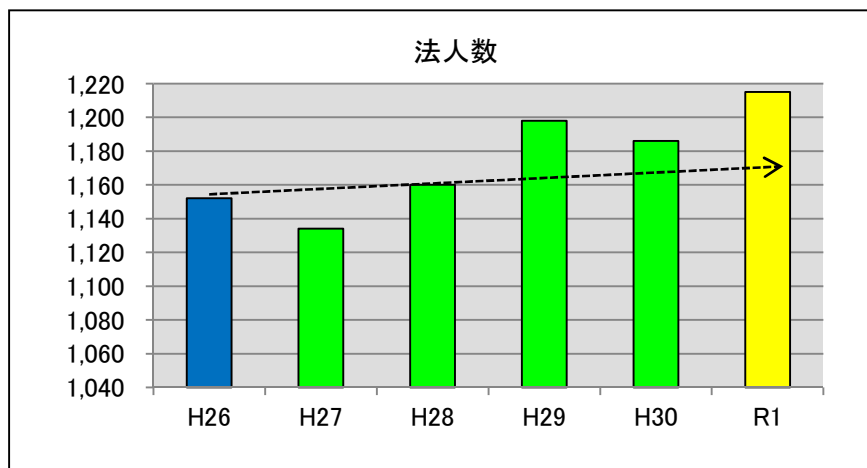
4. 今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗している。中心市街地の大型の再開発事業も進展がないことから、リノベーションの手法等を継続的に実施していくことで、意欲のある人材、企業の発掘や起業による空き店舗等の利活用を推進していくとともに、商店街の魅力を向上し、空き店舗に出店しなくなる商店街となるよう官民連携による取り組みを推進していく。

個別目標

「法人数（参考指標）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 111～P. 112 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：社)
H26	1,152 (基準年値)
H27	1,134
H28	1,160
H29	1,198
H30	1,186
R1	1,215
R1	1,167 (目標値)

※調査方法：法人市民税を申告している法人のうち計画区域内に属する法人数を抽出

※調査月：令和2年1月

※調査主体：浜松市

※調査対象：法人市民税を申告している計画区域内の法人

2. 目標の達成状況【A】

主要事業は概ね順調に進捗してきたため目標を達成することができた。

具体的には、主要事業を推進するとともに、ベンチャー企業の支援、サテライトオフィスの設置や中心市街地への市外からのオフィス出店補助等により、新たな企業の誘致を積極的に推進してきた効果があったものと思われる。

今後は、引き続き、主要事業を推進しながら、商店街への出店者を増加させるため、他事業との連携を検討し、中心市街地全体に効果を波及させていく。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 都心既存ストックの利活用事業（浜松市・まちづくり組織）【再掲】

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	都心の遊休不動産（既存ストック）の活用を目指して、地域の実情にあったリノベーション等による商業等の業務機能の再生を図るとともに、サブリース事業の実施主体となる組織及び人材を育成し、継続的な事業実施を目指すことで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度には、通常のリノベーションスクールに加えて、地元の企業28社が参加したリノベーションスクール企業版を開催した。企業版においても郊外の有名店舗が中心市街地への出店を決め、地元商店街とのコラボレーションを企画するなど好循環に向けて地道な努力が実ってきている感がある。 また、中心市街地活性化に意欲ある人材も順調に発掘している。
達成した（出来なかった）理由	想定していた以上に閉店や廃業に加えて高齢化による閉店や老朽化によるビルの取り壊しなどがあり、事業効果が追いついていない状況であったため、目標数値には及ばなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	これまでリノベーションスクールにおいて22物件中11物件が事業化されており、また、企業版においても新たな提案が出ていることから今後事業効果が発揮されるものと考えている。
事業の今後について	当該事業は継続的に実施していくことで、点を面にできる事業であるため引き続き実施していく。

②. 創造都市浜松推進事業（浜松市・まちづくり組織）【再掲】

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	官民が連携して遊休不動産のリノベーション等によるインキュベーター施設、シェアオフィス等を設置・運営するとともに、雑貨市『まるたま市』を開催しながら、将来、中心市街地で創業するクリエイター等の掘り起こしや誘発を推進していくことで、中心市街地に好循環を生み出す仕組みを構築する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度もまるたま市を、年1回4日間を年1回2日間と変更したものの引き続き開催した。出店数は約100店舗（前年度202店舗）ならびに来場者数7,200人（前年度18,900人）と年々定着してきており、起業候補者の発掘・育成に寄与している事業と言える。商店街等への新規出店数の増加に繋げることが課題となっているため、他事業とも連携をしていく必要がある。
達成した（出来なかった）理由	イベントとしての「まるたま市」の集客力は定着していることもあり安定していた。
計画終了後の状況（事業効果）	起業、創業を目指すクリエイターの発掘を目的として「まるたま市」を引き続き実施する。
事業の今後について	「まるたま市」は継続開催しつつ、浜松まちなかにぎわい協議会が運営しているコワーキングスペース等の施設「Any」を有効活用しながら起業、創業を支援していく。

4. 今後の対策

これまでリノベーションスクールや創業支援、民間事業者、まちづくり団体等によるワーキングスペース等の運営による起業、創業支援を積極的に推進してきた。

また、ベンチャー企業支援、サテライトオフィスの設置や中心市街地に市外からオフィスを出店する際の補助金により、新たな企業の誘致を積極的に推進してきた。

結果として、中心市街地における法人数は順調に増加していることから、今後も引き続き、これまでの取り組みを継続的に実施しながら、新たな官民連携による取り組みを検討、実施していく。